

総合的な
学習の時間

第6学年

江田島市立鹿川小学校

指導者 松井 円香

単
元
名

「Catch Your Dream ②

～ふるさと江田島にこうけんしよう!～

本単元で育成する資質・能力

主体性

日 時：令和3年10月28日（木）第5校時

研究主題

児童の探究的な学びが生まれる生活科・総合的な学習の時間の在り方
～「活用」を意識したカリキュラム・マネジメントを通して～

1 本校の総合的な学習の時間の目標（高学年）

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の教育資源を生かした総合的な学習を行うことを通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
地域の教育資源を生かした探究型の学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、地域の特徴やよさ、地域社会を支える仕組みや携わる人々の思い、持続可能な社会を実現するための課題等を理解する。	地域社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、目的に応じて表現する力を身に付ける。	地域の教育資源を生かした探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとする態度を養うとともに、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら地域社会に参画、貢献しようとする態度を養う。

2 能美中学校区（小中9年間）で育成したい資質・能力

	レベル1	レベル2	レベル3
やりきる力	好き嫌いせずに、決められたことをやりきる。	決められたこと以外でも、あきらめずにやりきる。	自分で決めた目標に向かって、粘り強く取り組む。
伝え合う力	【話すこと】 相手を見て話す。	【話すこと】 終わりまではっきりと話す。	【話すこと】 伝えたいことが分かるように、意見をまとめて話す。
	【聞くこと】 相手を見てだまって聞く。	【聞くこと】 うなずくなど、反応しながら聞く。	【聞くこと】 相手の言いたいことを考えながら聞く。
主体性	自分の「できたこと」「できなかったこと」が分かる。	「次にどうしたらよいか」を考えながら振り返る。	「新たな課題」を見付け、その解決に向けた見通しをもつ。

3 指導の方向性について

○単元観

【江田島の現状について】

江田島市は、広島県南部に位置する人口 22000 人の市である。平成 30 年においては殻付きカキの生産量は 2 万 231 トンと広島県においてトップレベルである。その他にも、キュウリの収穫量、クロダイ・コイワシの漁獲量において県内 1 位である。

江田島市統計書（2019 年）において年齢別人口比（令和元年）で 65 歳以上が 45% を占めることから、江田島市は「超高齢社会」である。全国や広島県と比べても、高齢化率は大きく右肩上がりに進んでいる。また、昭和 55 年と平成 27 年度の江田島市の年齢別人口構成を比較すると、65 歳以上の人口に変化はないが、50 歳以下の人口が大きく減り、働き盛りの世代や若者、子どもの人口が減少している。また、人口自体も 5 年ごとに 2000～3000 人減少している。

本単元は、児童の江田島に対する想いからスタートし、自分なりのふるさとへの貢献を考えさせることを意図している。

一人一人が興味をもった江田島の課題について現状や現在の取り組みを調べてまとめ、友達と発表し合い、自己評価、他者評価していくことで、今の自分たちがふるさとのためにできることを見つけ、実践していく。

そして、1 学期の職業調べで分かったことや調べる中で出会った大人の生き方と併せて、将来、自分が仕事を通してふるさとのためにできることを考えていく。

○児童観（第 6 学年 20 名）

【児童の実態】

本学級の児童は、アンケートにおいて「総合的な学習の時間において必要な情報とそうでない情報の取捨選択をしている」と答えた児童は 18 名であった。また、「話し合う活動において、自分の考えと友達の考えの相違点に気を付けて聞き、自分の考えを話すことができる」と答えた児童は 19 名であった。

一方、「当てはまらない」と答えた児童が多かった項目は、「自分なりの課題を見つけている」が 3 名、「自分の考えが伝わるように資料や文章の組み立て等を工夫している」が 4 名、「自分の課題に対する考えを相手に伝えている」が 3 名、「各教科で学んだことを生かして自分の考えをまとめたり、新しいものを創り出ししたりしている」が 3 名であった。これらのことから、必要な情報を集めたり、友達の考えを受けて自分の考えを話すことができるが、自ら課題を見つけ、それに対する自分の考えを話したり、関連付けて考えたり、効果的な表現方法の工夫をしたりすることに課題があるといえる。

【育成する資質・能力と関連する実態】

「主体性」…すべての児童が、自分の学習状況を適切に振り返る（レベル 1 程度）ことができる。普段の学習でも、定期的に振り返る時間を確保している。しかし、見通しをもって学習を進めることができる（レベル 3 程度）児童は少なく、多くの学習で、教師が見通しをもたせて学習を進めてしまっている現状がある。

○指導観

【本単元における指導の方向性】

- 単元を貫く問いとして「ふるさと（江田島）に貢献するにはどうすればよieldらうか」を設定し、江田島のために地域で活動をする大人に話を聞いたり、一緒に活動したりすることを通して、江田島のために自分たちに何ができるか考え、まとめとしてプレゼンテーションソフトを使って提案する活動を設定する。単元終末には、実際に活動をして、その検証も行っていく。単元の始めには、児童に江田島に関するアンケートを行い、江田島が好きな児童が多いが、住み続けたいと思う児童は少ないという事実を明らかにしたり、自分たちの統計データと江田島市統計書のデータを使って、データ同士の関連性を考えたりすることを通して、江田島の現状と未来がどうなっていくのか考え、話し合う。単元の第一次として、江田島の課題について出し合い、自分が調べたい課題に合わせてグループ分けをする。「江田島市の課題に対して、どんな人がどんな活動をしているのか？」を調べることを通して、江田島のためにできることについての知識を得るとともに、地域で江田島のために活動をする大人の考え方や生き方に触れられるようにする。第二次では、課題について体験したことや調べたことを、プレゼンテーション形式でまとめる学習を設定することで、課題について自分なりの答えを出すようにさせる。「より説得力をもった提案にするには」ということを意識させ、児童同士や地域で話を聞いた大人に批評してもらう活動を仕組むようにする。
- 探究的な学びを実現するために次の 3 点に留意して指導する。
 - ①主体的に見通しをもつために⇒「探究のサイクル」の充実
「課題の設定」→「情報の収集」→「情報の整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のサイクルを常に繰り返し行うことができるように、掲示を活用し、本時で自分がどの場面に当たるのか認識させる。
 - ②主体的に学習を評価し修正・改善するために⇒作成物に対する多様な評価の活用と、改善する時間の確保
単元を通して、最終発表までに 2 回発表し、他者評価される場面を設ける。その際、児童同士だけでなく、児童同士や地域で話を聞いた大人に批評してもらう場を設けることで、作成物をよりよくしていこうとする意識を持たせる。また、評価を踏まえて、作成物を改善する時間を確保する。
 - ③主体的な深い学びのために⇒本時の目標の設定と振り返りの活用
初めに本時の目標を各自で決め、振り返りを行う。振り返りでは本時の達成度を数値で振り返り、その理由を記述させる。理由には、「できたこと」「できなかったこと」の視点をもたせて書かせる。そうすることで、達成感を持たせるだけでなく、「できなかったこと」が次時の目標へとつながるようにする。

4 本単元に関する「本質的な問い」について

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
 “社会の一員として生きる”とはどういうことか。



【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
 ふるさと（江田島）に貢献するにはどうすればよいだろうか。



【個別の問い】（授業内で身に付ける知識・技能等）

- 江田島の現状はどうなっているのか。○江田島の抱える課題は何だろう。
- 問題に対する江田島の取り組みはどのようなことがあるだろう。
- どんな人が江田島のために活動しているのか。○今の自分たちにはできることは何があるだろうか。
- なぜわざわざ江田島で活動したり，店を開いたりしたのだろうか。
- 将来，自分たちが仕事を通して江田島のためにできることはどのようなことがあるだろうか。

5 単元の目標

「ふるさと（江田島）に貢献するにはどうすればよいだろうか。」を問い続けることを通して，江田島のよさを再認識するとともに，自分と地域のつながりを理解し，収集した情報を根拠にして思考・判断・推論して江田島のためにできることを考えて提案の仕方を工夫し，自らの生き方に生かすことができる。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力，判断力，表現力等	(3) 学びに向かう力・人間性等
江田島のよさを再認識し，自分と地域とのつながりを理解することができる。	収集した情報を根拠にして推論するとともに，効果的な提案の仕方を考え，自分の考えを表現することができる。	協働的に学んだり，探究的に学習を進めたりしながら，課題を追究し，自らの生き方に生かすことができる。

6 単元の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
江田島の問題について調べていく中で，江田島のよさを再認識し，自分と地域とのつながりを理解している。	収集した情報を根拠にして推論するとともに，効果的な提案の仕方を考え，自分の考えを表現している。	協働的に学んだり，自己評価を生かして探究的に学習を進めたりしながら，意欲的に課題を追究し，自分の生活や行動に生かそうとしている。

7 単元のルーブリック

評価の観点	A 評価	B 評価	C 評価
知識・技能	江田島の問題を明らかにすることで，今や将来の自分と地域のつながりを理解して江田島のよさを再認識し，地域における自分の役割に気付いている。	江田島の問題を明らかにすることで，今や将来の自分と地域のつながりを理解し，江田島のよさを再認識している。	江田島の問題を明らかにできず，自分と地域のつながりを理解していない。
思考・判断・表現	複数の方法で収集した情報を関連付けて思考・判断したりするとともに，友達の意見を認めながら意見したり反論したりしている。	収集した情報を関連付けて思考・判断し，調べたことを言葉やグラフなどを使って分かりやすくまとめることができる。	収集した情報を関連付けて考えることができず，分かりやすく表現することができない。
主体的に学習に取り組む態度	協働的に課題を追究し，学習を自己評価することで，達成度や新たな課題を明らかにすることができ，自らその後の学習を軌道修正し，自分の生活や行動に生かそうとしている。	協働的に課題を追究し，学習を自己評価することで，達成度や新たな課題を明らかにし，自分の生活や行動に生かそうとしている。	協働的に課題を追究できず，自己評価することができない。また，自分の生活や行動に生かそうとしていない。

8 単元の計画（全 25 時間）

次	学習活動	知	思	主	評価方法
第一次 ⑩	ふるさと（江田島）の現状把握②	○			行動・発言 ワークシート 振り返り
	課題の設定①			○	行動・発言 ワークシート 振り返り
	情報の収集・体験活動⑦		○	○	行動・発言 ワークシート 振り返り
第二次 ⑮	情報の整理・分析⑤		○		行動・発言 作成物 ワークシート 振り返り
	まとめ・表現⑩	○	○	○	行動・発言 作成物 ワークシート 振り返り

9 本時の展開 (16/25 時間)

(1) 本時の目標

各グループの提案を認めながら、理由を明らかにして改善点を見付け出すことができる。

(思考・判断・表現)

(2) 学習展開

	(番号) 児童の学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ●評価
学習の見通しをもたせ、目標を設定する	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の目標を立てる。</p> <p>○ 単元の最後に、「ふるさと（江田島）に貢献するために何ができるか」を、市議会アドベンチャーで提案します。今日の学習では、どんなことができたらいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのよいところを見付ける。 ・もっとこうしたらよい所を見付けてアドバイスし合う。 ・できたら、改善もしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて ほかのグループの発表を聞き、良かったところや改善点とその理由を見付けよう。</p> </div> <p>○ 前の時間の振り返りを見返し、自分の目標を決めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかのグループの良い所も改善点も見付ける。 ・改善点とその理由も見付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示した学習計画を見ることで、本時が全体のどこに位置するか確認するとともに、本時の活動の見通しをもたせる。 ・ 前時に振り返った内容の確認とめあてを受けて自分の目標を決めさせることで、本時の活動への意欲を高める。
情報の収集／整理・分析／表現・まとめ	<p>2 グループごとに、提案発表をする。</p> <p>○ 各グループの提案を聞いて評価し、良かったところやもっとこうした方がいいところをその理由も付けて見付けましょう。</p> <p>【 各グループの提案発表に 】</p> <p>○ 良かった点や改善点の理由を付けて発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料が分かりやすく良かった。理由は、一番伝えたいことを太字にして色も変えていたから。 ・発表者の説明が分かりやすかった。ゆっくり話していたので、聞き取りやすかった。 ・資料は、写真があって分かりやすかったけど、文字が小さくて何が書いてあるか分かりづらかった。 ・江田島に新しい飲食店が増えていることは分かったが、なぜ増えてきているのか知りたい。 ・海のごみが多いことは分かったが、どこから来たごみか分かれば、自分たちにもできることが分かるんじゃないか。 ・空き家が増えていることは分かったが、その増えていることがグラフを使えば、見ている人にも分かりやすいのではないか。 ・主張と理由はよく分かった。根拠に具体的な数が入っているとより説得力が増すと思う。 ・根拠に〇〇の数が入っていて、説得力があった。スライドにその数がグラフを使って表してあると、減っていることがより伝わるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート（資料1）を用意し、視点を提示することで、良かったところや改善点を見付けやすくする。 ・ タブレットのデジタルホワイトボード機能（ジャムボード）を使って意見交流することで、各グループが改善点を常に振り返ることができるようにする。 ・ 各グループの発表後、ワークシートを記入する時間を設け、友達と相談しながら記入してもよいとすることで、見付けにくい児童も自分の考えをもちやすいようにする。 ● 各グループの提案を認めながら、理由を明らかにして改善点を見付け出すことができている。（思・判・表） ・ 主張と理由、それを支える根拠についての視点も与えることで、国語との関連を意識させる。

自己評価と次時への見通しをもつ	<p>3 本時の学習の自己評価をする</p> <p>○ 今日の学習を振り返って、自分の学習を評価しましょう。</p> <p>4 次時の学習へ見通しをもつ</p> <p>○ 次の時間は、今日の改善点を踏まえて、提案資料を改善していきます。何を改善していくか、各グループで話し合ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の文章を短くして、文字を大きくする。 ・説明の時に、聞き取りやすくなるようにゆっくり読む練習をする。 ・資料にグラフを追加して、増えたことが一目で分かるようにする。 ・飲食店が増えた理由を調べて、提案資料に追加したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして本時の自己評価（資料2）をさせることで、本時の学習成果を実感させるとともに、次時の活動への見通しをもたせる。 ・自己評価やその根拠を見付けることができない児童に対しては、個別に声かけを行う。 ・本時の学習の終末に次時への見通しをもたせておくことで、次時の活動にスムーズに入れるようにする。
-----------------	--	---

(3) 板書計画及び配布資料等

10/28 Catch Your Dream ② 表現・まとめ
(木)

めあて ほかのグループの提案発表を聞き、良かったところや改善点とその理由を見付けよう。

評価の視点 ◎・・・とてもよい ○・・・よい △・・・もう少し

発表者について	提案内容について	スライドについて	疑問・もっと調べた方がよい事
<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ ・話すスピード ・目線 ・声の調子 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張がよく分かったか ・その理由がはっきりしているか ・根拠は事実や体験、データを用いて具体的であるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字、写真、グラフなどが分かりやすいか 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案を聞いて疑問に思った事 ・これについて調べてみてはどうかと思う事 ・アドバイス

提案発表評価ワークシート

評価の視点について

☆ 評価 ☆

◎・・・とてもよい

○・・・よい

△・・・もう少し

☆ 評価の理由, 改善方法 ☆

○発表者について・・・声の大きさや話すスピード, 目線, 声の調子など

○提案内容について・・・主張がよく分かったか, その理由がはっきりしているか, 根拠は事実や体験, データを用いて具体的であるかなど

○スライドについて・・・文字, 写真, グラフなどが分かりやすいか

○疑問・もっと調べた方がよい事・・・提案を聞いて疑問に思ったことや, これについて調べてみてはどうかと思うこと・アドバイスなど

()グループ

評価の視点	評価	評価の理由 (改善点)
発表者について		
提案内容について		
スライドについて		
疑問・もっと調べた方がよいこと		

自己評価ワークシート

月 日 () 時間目 自分の目標							
今日の目標の達成度	A(完璧!)			B(まあまあ)			C(いまいち)
	120%	110%	100%	90%	80%	70%	60%以下
評価の理由 (できたこと, できなかったことについて)							
課題の進捗について	120%	110%	100%	90%	80%	70%	60%以下
次の学習に向けて							